

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900110		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホーム高梁2号館		
所在地	高梁市落合町阿部2029-1		
自己評価作成日	平成29年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390900110-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の方々が自宅のように自由に過ごされながらも、出来る事の維持を図りながらGHでの生活を楽しんでおられる。敷地内には、芝生の大きな庭があり、イスやテーブルを設置、お茶を飲んだり時には食事をしたりすることがある。また施設建物の周りはすべて芝生が敷き詰められており敷地内は自由に散歩する事が出来る。また今年は各リビングの前で野菜を育てている。食材は地産地消を心がけお米は地元の農家より購入し野菜は直売所を利用、そのほかの物も地元の商店よりじかに購入し、献立も出来るだけ利用者の意見を聞きながら考え提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いをさらに汲んで欲しいと考え、職員が利用者に対し半日を過ごす疑似体験を実施した。体験した職員に感想を述べてもらい、職員は声掛けの仕方が良かった等と褒めてもらい自信に繋がった。しかし、今まで何気なく側で見守っていた行為が「見張られている」と感じられたり、選択肢が持てる声掛けでない命令されていると取られたりしてしまう等、反省すべき点も浮上した。今後はより一層利用者の思いを汲んだ介護をしていきたいとの意見が多数出ている。自分の思い込みを押し付けず、「本当に気持ちを解ってあげているのか」と常に思いやり、謙虚な姿勢で接したいとの思いは賞賛に値する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニットにかがけてあり職員の常に目に留まるようにしてある。また日ごろから理念と踏まえた指導を行っている。	理念の実践に努めている。まず管理者は、職員の知識習得が理念の「専門性」につながると考え、研修に力を入れている。また利用者が「ここに居ると安心」と思ってもらえる空間と良好な人間関係作りを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動には出来るだけ参加ができるように行ってる。地域の方にも、ホームでのイベントやそれ以外でも訪問がる	地区の住民以外にも、近隣の医療機関や授産センターとの交流もあり、見学に来たり、駐車場を貸してもらったり、互いの行事に参加したり等している。毎年実施する夕涼み会には、地域の方が準備から後片付けまで手伝ってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や地域の職員を増やししながら、認知症への理解等を地域に発信できるように行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現状報告や広報誌を見ていただきながら、ホームでの利用者の生活状況や日常を報告したりすることで、意見をうかがって今後に生かしている。	運営推進会議では事業所の取り組みを伝え、参加者から意見を聞き、運営の参考にしている。メンバーは事業所に対して大変友好的で、大きな行事をする際は率先して手伝ってくれる。	運営推進会議のメンバーが固定している。是非家族や他のグループホーム等に声を掛けて参加してもらい、色々な意見交換が出来る場にして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して現状等を報告を行っている。またITを利用しながら連携を行っている。	運営推進会議には市の職員が参加しており、定期的にサービスの実践内容を報告する機会があり、相談等にも応じてもらえる協力関係に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常のケアの中で、1つ1つの意味が考えられるような介護ができるよう常に指導を行っている。また各職員が研修の担当をもつことでより知識を深めていけるように行っている	職員研修で「身体拘束」の言葉の意味を理解しているかどうかアンケートに答えてもらった。「知っている」と答えた職員には、どんな行為が拘束に該当するかを書き出してもらい、職員間で再確認を行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアの中で、1つ1つの意味が考えられるような介護ができるよう常に指導を行っている。また各職員が研修の担当をもつことでより知識を深めていけるように行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各職員が研修の担当をもつことでより知識を深めていけるように行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には詳しく説明を行っている。その際疑問点等にも対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望等は面会時などで現場職員が対応。どの職員に対してもご家族が言いやすい環境をつくれるようにしている。ご家族からの意見等は常に管理者に届いている	職員と家族との人間関係も良好で、家族はいつでも誰にでも何でも言えている。家族に庭の草むしりのボランティアをお願いしたところ、大勢の家族が参加を申し出てくれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を言いやすい環境作りに関心掛けている	管理者は職員が働きやすい環境を作る事が仕事と考え、職員が主となって働ける職場作りをしている。もし失敗しても修正すれば問題は無いと、横からあれやこれやと口出しもしない。また、出勤も職員の都合を優先させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭環境や能力を理解し、その能力等が活気しやすい環境や労働条件などにも努めるよう努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員がステップアップしやすい環境作りに関心している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の管理者会議等でお互いに情報交換をしながら行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見守る姿勢・聴く姿勢・察する姿勢を継続する事で、信頼関係を築けるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の話をしっかり聞き、不安を取り除き、安心できるよう心がけている。また話を聞き対応することで信頼関係を築くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用時には、必要な支援を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活を大事にしながるとともに日々を過ごす者同士といったことに重点を置いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の帰省、行事の参加や季節の変わり目等の支援を協力をお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所に機会が持てれば、連れて行ったりし関係が途切れない努力している。	家族と過ごす時間を大切な時間と捉え、出来る限り正月と盆には帰省をしてもらっている。時期が近づいてきたら、家族に帰省のお願いをしている。外泊に不安を感じる家族には無理強いせず、不安の払拭に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう配慮し、お互いが関わりを大切に支え合えるよう支援に努めている。また個々に合った生活スタイルを大切にしながら、楽しみ・親しみを感じ、共有できる雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所も相談があれば、フォローし支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、個々の思いや暮らし方を大切と考えた支援を行っている。またどのようにすれば本人の望む生活ができるかなど検討を常に行っている	利用者の思いをより深く理解するため、半日職員が利用者に扮し、疑似体験をもらった。終了後に感想を言ってもらい、隣に寄り添う、声を掛ける等の行為が、する側とされる側での受け取り方が全然違うことに気づき、今後の支援の参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴などを把握しているが、日々の生活の中でさりげなくより詳しい生活歴を聞き出したりし、ケアに役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常生活を見極めながらその時々 の状態や能力等による支援を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンスペーパー・介護記録等を有効活用し情報交換を行いながら介護計画に役立てている	介護計画は家族の心配事も取り入れて計画を立てている。利用者に関わり、気になる点の特記事項に書いて、次回の作成時の参考にしている。毎月モニタリングを実施し、評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングやカンファレンスペーパー・介護記録等を有効活用し情報交換を行ないながら介護の見直し等に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の環境の変化に伴うニーズの変化にも対応できるよう柔軟な対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前にご家族・本人から主治医の確認を行い、できる限りかかりつけ医の変更を行わず、受診の際には、可能な限り職員が同行し、主治医との連携を図りながら適切な医療が図れるよう支援を行っている	利用者の状況を一番把握している職員に、通院は任せている。急変時、直ぐ対応が出来るよう、主治医と職員の連携を図っていきたいとの考えからでもある。職員が医師に利用者の様子をどのように伝えたら良いか解らない時は、管理者がアドバイスをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/週の訪問看護時に情報提供し医療が必要等の指示を受けたり・24時間対応が可能となっているため緊急時対応の指示を受けたりしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市内共通の情報共有書を利用し医療との情報交換を行っている。また地域連携室を利用しながら必要時には情報を収集している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の家族と必要に応じて今後についての話し合いを行いながら、家族の意向をふまえた上での事業としての方針など職員ともよく話し合いながら支援を行っている	看取りは出来ない方針では打ち出しているが、本人や家族の意向を踏まえ、出来る限りの対応はしたいと考えている。先日も急変し今後の対応を皆で話し合った。職員は出来限り事業所で支援をしたいと申し出てくれ、利用者に食べたい物を食べてもらっていたら回復し、今は元気に過ごしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは各ユニットに張り出されておる。また日々の介護の中で緊急時の対応については、話を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は年2回行っている。その他災害時については近隣の協力体制を法人単位で行っている	災害時の避難先で、利用者が一般の方達と昼夜を共に過ごすのは負担になると考え、災害時の避難場所は近くの医療機関にお願いしている。詳細な打合せは、施設長が行ってくれる予定となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通して、言葉の大切さ(人格の尊重・プライバシー)を理解した対応を行えるように、職員同士がお互いに注意しあえる環境を目指している	利用者の個々に合わせた言動をしている。利用者に食べたい物を聞いた時、昨日と同じメニューを食べたいと言われた時は、「昨日食べたでしょう」とは言わず、「今日は〇〇が食べたいので良いですか」と聞いて、尊厳に配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に本人が自己決定ができるような言葉かけを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の日常生活を大切と考えるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の生き方を尊重しその人らしさが出るように支援をおこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は決めず、その都度利用者の意見を取り入れながら、食事を作る楽しみ等を一緒に行う事で能力を発揮した援助を行っている	お菓子や調味料も出来る限り手作りにし、美味しく食事をしてもらっている。利用者からも「味付けが良い」と教えてもらった。正月に帰省できなかった利用者の為、握り寿司の出前を取る等、豪勢な料理を振舞っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分のチェックを行い、個々の体調を見ながらその都度対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じた毎食後の口腔ケアをすることで口腔内の変化にも早期対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを有効利用し個々の排泄パターンや習慣を把握し、自立に向けた支援ができるように検討したりしている	おむつは肌に当たる箇所が多く、皮膚のトラブルに繋がる為出来る限り使用しないように努め、パット交換で対応をしている。パットの使用も出来る限り控えたいと考えているが、利用者がパットをしない事を不安に感じる場合は、小さいサイズのパットで対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の原理を知ることで、そのつどに必要なものを的確に提供できるよう行っている。また食生活にも気を配りながら提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が出来る環境をつくり個々の時間に応じた対応を行っている	お風呂は毎日沸かしているので、毎日入浴が可能である。3時位から自由に入浴してもらっている。汗かきの利用者には、汗をかいた状態だと就寝時気持ちが悪く考え、夕食後に入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活を尊重した支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用副作用を理解し、服薬からくる些細な変化も見逃さないよう観察力を磨きながら対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や外への散歩、外出その方その方の得意とされる趣味裁縫などをして気分転換や余暇の充実をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩は自由にさせていただいている。又希望を聞きながら普段と異なる所へ出掛けたり、家族や地域の協力を得れる時はお願いしている。	気候が良ければ何人かと一緒に事業所の周辺を散歩する。日中は全ての扉が施錠されていない為、いつでも利用者は自由に外へ出る事が出来る。社用車を4台も購入しているので、利用者連れてドライブに気軽に行ける。先日もバラの苗を買いに、農マル園芸に皆で出掛けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方に対しては所持されておられ、購入したいものがあれば希望をお聞きし支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は使用して頂いたり対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし清潔保持に努めている。また室内の環境整備へも配慮し四季の花を活けたり、家庭らしい落ち着いて過ごせる空気感を大切にしている。又湿度温度共に適温で過ごしていただけるよう随時確認している。	居心地良く過ごせる温度管理をしている。床暖房を取り入れ、冬場にエアコンをつける必要性がなくなる事で湿度が保たれ、風邪はひきにくくなり、乾燥肌の人も皮膚トラブルになりにくい。居間と居室の間に扉を設置し、冬場は温かい空気が廊下に漏れるのを防いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の位置や椅子の向き一つに対しても共同空間の中で、一息つける個人のスペースの確保や他者と関われる居場所作りに気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物をお部屋に置いたり、その方その方が居心地の良く過ごしていただけるよう工夫している。	利用者はほとんど毎日職員と一緒に自室を掃除し、清潔を保持している。利用者が必要と思う家具等を持ち込んでもらい、使いやすい様に配置をしてもらっている。花好きな利用者の部屋には花瓶を置き、職員が自宅から持って来てくれた花を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力を見極め、出来る事はしていただきながら安全に自立した生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900110		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホーム高梁2号館		
所在地	高梁市落合町阿部2029-1		
自己評価作成日	平成29年7月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の方々が自宅のように自由に過ごされながらも、出来る事の維持を図りながらGHでの生活を楽しんでおられる。敷地内には、芝生の大きな庭があり、イスやテーブルを設置、お茶を飲んだり時には食事をしたりすることがある。また施設建物の周りはすべて芝生が敷き詰められており敷地内は自由に散歩する事が出来る。また今年は各リビングの前で野菜を育てている。食材は地産地消を心がけお米は地元の農家より購入し野菜は直売所を利用、そのほかの物も地元の商店よりじかに購入し、献立も出来るだけ利用者の意見を聞きながら考え提供している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390900110-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年8月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニットにかがけてあり職員の常に目に留まるようにしてある。また日ごろから理念と踏まえた指導を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動には出来るだけ参加ができるように行ってる。地域の方にも、ホームでのイベントやそれ以外でも訪問がる		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や地域の職員を増やししながら、認知症への理解等を地域に発信できるように行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現状報告や広報誌を見ていただきながら、ホームでの利用者の生活状況や日常を報告したりすることで、意見をうかがって今後に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して現状等を報告を行っている。またITを利用しながら連携を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常のケアの中で、1つ1つの意味が考えられるような介護ができるよう常に指導を行っている。また各職員が研修の担当をもつことでより知識を深めていけるように行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアの中で、1つ1つの意味が考えられるような介護ができるよう常に指導を行っている。また各職員が研修の担当をもつことでより知識を深めていけるように行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各職員が研修の担当をもつことでより知識を深めていけるように行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には詳しく説明を行っている。その際疑問点等にも対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望等は面会時などで現場職員が対応。どの職員に対してもご家族が言いやすい環境をつくれるようにしている。ご家族からの意見等は常に管理者に届いている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を言いやすい環境作りに心掛けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭環境や能力を理解し、その能力等が活気しやすい環境や労働条件などにも努めるよう努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員がステップアップしやすい環境作りに心がけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の管理者会議等でお互いに情報交換をしながら行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見守る姿勢・聴く姿勢・察する姿勢を継続する事で、信頼関係を築けるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の話をしっかり聞き、不安を取り除き、安心できるよう心がけている。また話を聞き対応することで信頼関係を築くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用時には、必要な支援を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を大事にしながるとともに日々を過ごす者同士といったことに重点を置いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の帰省、行事の参加や季節の変わり目等の支援を協力をお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所に機会が持てれば、連れて行ったりし関係が途切れない努力している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう配慮し、お互いが関わりを大切に支え合えるよう支援に努めている。また個々に合った生活スタイルを大切にしながら、楽しみ・親しみを感じ、共有できる雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所も相談があれば、フォローし支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、個々の思いや暮らし方を大切と考えた支援を行っている。またどのようにすれば本人の望む生活ができるかなど検討を常に行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴などを把握しているが、日々の生活の中でさりげなくより詳しい生活歴を聞き出したりし、ケアに役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常生活を見極めながらその時々 の状態や能力等による支援を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンスペーパー・介護記録等を有効活用し情報交換を来ないながら介護計画に役立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングやカンファレンスペーパー・介護記録等を有効活用し情報交換を来ないながら介護の見直し等に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の環境の変化に伴うニーズの変化にも対応できるよう柔軟な対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前にご家族・本人から主治医の確認を行い、できる限り限りかかりつけ医の変更を行わず、受診の際には、可能な限り職員が同行し、主治医との連携を図りながら適切な医療が図れるよう支援を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/週の訪問看護時に情報提供し医療が必要等の指示を受けたり・24時間対応が可能となっているため緊急時対応の指示を受けたりしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市内共通の情報共有書を利用し医療との情報交換を行っている。また地域連携室を利用しながら必要時には情報を収集している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の家族と必要に応じて今後についての話し合いを行いながら、家族の意向をふまえた上での事業としての方針など職員ともよく話し合いながら支援を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは各ユニットに張り出されておる。また日々の介護の中で緊急時の対応については、話を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は年2回行っている。その他災害時については近隣の協力体制を法人単位で行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通して、言葉の大切さ(人格の尊重・プライバシー)を理解した対応を行えるように、職員同士がお互いに注意しあえる環境を目指している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に本人が自己決定ができるような言葉がけを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の日常生活を大切と考えるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の生き方を尊重しその人らしさが出るように支援をおこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は決めず、その都度利用者の意見を取り入れながら、食事を作る楽しみ等を一緒に行う事で能力を発揮した援助を行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分のチェックを行い、個々の体調を見ながらその都度対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じた毎食後の口腔ケアをすることで口腔内の変化にも早期対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを有効利用し個々の排泄パターンや習慣を把握し、自立に向けた支援ができるように検討したりしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の原理を知ること、そのつどに必要なものを的確に提供できるよう行っている。また食生活にも気を配りながら提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が出来る環境をつくり個々の時間に応じた対応を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活を尊重した支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用副作用を理解し、服薬からくる些細な変化も見逃さないよう観察力を磨きながら対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や外への散歩、外出その方その方の得意とされる趣味裁縫などをして気分転換や余暇の充実をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩は自由にさせていただいている。又希望を聞きながら普段と異なる所へ出掛けたり、家族や地域の協力を得れる時はお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方に対しては所持されておられ、購入したいものがあれば希望をお聞きし支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は使用して頂いたり対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし清潔保持に努めている。また室内の環境整備へも配慮し四季の花を活けたり、家庭らしい落ち着いてすごせる空気感を大切にしている。又湿度温度共に適温で過ごしていただけるよう随時確認している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の位置や椅子の向き一つに対しても共同空間の中で、一息つける個人のスペースの確保や他者と関われる居場所作りに気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物をお部屋に置いたり、その方その方が居心地の良く過ごしていただけるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力を見極め、出来る事はしていただきながら安全に自立した生活が送れるように工夫している。		